

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 月 日

事業所名 まなviva 笠屋教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		学習スペースとフリースペースを設けた。	曜日によってスペースの確保が出来ていない時がある。
	2	職員の配置数は適切である	6			より業務改善を行い適切に配置していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			今後も安全に過ごせるように配慮していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			その都度業務改善を行なっていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			保護者からの意見は職員で共有し業務改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			ホームページにて公表している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		来年度は行うように改善する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			研修のお知らせは職員で共有して資質の向上を行うようにしている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			今後もしっかりアセスメントを行い作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			コグトレやリタリコのアセスメントツールを使って子どもの状況をはかっている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			ミーティングの際にそれぞれに意見を出し合っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			平日の活動は比較的固定されているが週末は様々な活動を行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			もっと工夫できるように努めていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			子どもの日々の状況や保護者からの情報をもとにその子に適した支援計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			毎回短い時間ではあるが打ち合わせはできているので継続していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			今後も当日もしくは翌日に共有していくように取り組んでいく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			記録に関しては日々徹底して行われているので継続していく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			定期的に保護者とは話し合い見直すことが出来ているので継続していく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	6			複数組み合わせさせて支援を行う様にしている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			代表や管理責任者が参加するようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6			各支援員が対応しそれを共有して行うようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				該当する児童の受け入れを行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			なるべく情報の共有をするように努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	1		今後スキルシートを利用し情報を提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6			コロナ禍により中々研修を受ける機会が少ないがなるべく連携していくように努める。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6		外遊びの時は、地域の子供たちと一緒に遊んでいる。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		6		コロナ禍により参加することが難しい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			連絡帳や送迎時また電話等で共有している。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6			コロナ禍の為行えていない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			契約の際に説明を行う様にしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			相談があった場合は助言等を行う様にしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6			コロナ禍により行うことが出来なかった。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			苦情があった場合は職員で共有し迅速かつ適切な対応を行うように努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		毎月保護者に活動の写真を配信している。	日々の活動の様子を写真にて発信するようにしている。
	35	個人情報に十分注意している	6			個人情報には十分注意を払うようにしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			わかりやすく適切に情報伝達できるように配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	6			コロナの為実施できていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6		マニュアルを職員や保護者に周知するように努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		年間計画の中で定期的に行うようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		今後研修を行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		身体拘束はしない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		アレルギーのある子供については対応するよう努めている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		作成共有するよう努めている。